

地域おこし協力隊交流会(平成 27 年度)

1. 趣旨

地域おこし協力隊の地域間の交流、情報交換、ネットワークづくり及び、市町村担当者の情報交換の機会の提供

2. 日時・場所

平成 27 年 8 月 3 日(月)～4 日(火) 高遠さくらホテル(伊那市高遠町勝間 217)

3. 対象及び参加者数

参加対象: 地域おこし協力隊、専任の集落支援員、
地域おこし協力隊を導入している市町村の担当職員
参加人数: 71名(28市町村) ※うち市町村担当職員 6名

4. 内容

【1日目: 8 月 3 日(月)13:30～】

- ① 県内の地域おこし協力隊の取組状況について
- ② 事例発表
上伊那地域協力隊員のネットワークづくりの事例
- ③ ワークショップ
テーマ: 地域おこし協力隊と地方創生
メンバーを替えて意見交換を行った後、グループごとに意見や提言を整理。
- ④ 懇親会
各地域のPR

【2日目: 8 月 4 日(火)9:00～11:00】

- ① ワークショップまとめ
グループごとに発表後、意見交換・結果の共有
- ② 個人テーマの設定
ワークショップを受けて、交流会後に取り組みたいテーマを各自で設定
後日フォローアップ調査を実施

(当日の様子)





5. ワークショップでの意見・提言

- ・持続可能な地域にするために、都会の豊かさはなくても自分の役割で生きていく(お金がなくても生活できる)システムの構築が必要。住んでみたいと思わせることが必要。
- ・移住してきた人はよそものであり地域になじめないので、精神的な面でサポートする組織みたいなものがあればいい。移住者と地域の仲介役が必要。
- ・集落を美しく閉じるという考え方もある。閉じるにあたり集落の歴史を紐解くことで、高齢者も生き生きと語り、明るく気持ちよく閉じていける。
- ・移住施策で、外から来る人に目が行きがちですが、地元の住民をもっと大事にしていきたい。
- ・人口を増やすことは必要。しかし、何のために人口を増やしたいのか、住民が生き生きと暮らせる地域づくりをするためにはどうしたらいいかを考えていかなければならない。

6. 参加者からの感想・意見(参加者アンケートより)

- たくさんの方と交流できて勉強になり、刺激になった。
- ワークショップは難しかったが、自分たちが行っている活動が地域を笑顔にする方向に進んでいくように、みんなで協力しながら今後も進んでいきたい。
- しっかり情報交換、刺激を受けることができました。提案を受け入れてもらえるよう担当係、行政と話し合ってみます。一人じゃないんだと再確認できました。
- 全県単位でなく、北信・南信などブロック単位で開催してほしい。
- 協力隊制度の運用や特別交付税(特に報償費の弾力化)について担当者向けの研修をしてほしい。
- 地域ごとの(協力隊の)集まりを県が主体となってやってみてはどうか。